

河北新報

マグロ船に興味津々

気仙沼市の友好都市、東京目黒区の駒場小の5年生75人が4日、同市の気仙沼漁港に係留された遠洋マグロはえ縄漁船を見学した。初めてマグロ船に乗った見



操舵室を見学する児童たち

気仙沼の友好都市東京・目黒の児童

たちは、操舵室や船員の寝室などを興味深げに見て回った。

同校の5年生が毎年2泊3日で実施している「自然宿泊体験教室」の一環。東日本大震災後の2013年から毎年同市を訪れ、水産業や復興の現状、防災などを学んでいる。

児童たちは「第123勝栄丸(439トン)を見学。同市の水産会社などで行く「気仙沼の魚を学校給食に普及させる会」のメンバーが案内した。

児童たちはマイナス60度の急速冷凍庫に入ったり、ディーゼルエンジンを間近で見たりした。操舵室では、船の位置を確認する機械に

触れた。角田俊明君(10)は「はえ縄漁は、塾で勉強していたが、実際に船に乗るのは初めて。知らないことをたくさん学ぶことができたと話した。

児童たちは同市の大島に宿泊し、大島小の子どもたちと交流した。北島陽彦校長は「東京ではマグロ船に乗って本物の漁師の話聞くことはできない。子どもたちにとって貴重な経験だ」と話した。